



ヒューマニティーズセンター
Humanities Center

第45回オープンセミナー (特別回)

報告者

坂井 修一

東京大学情報理工学系研究科教授
附属図書館長、歌人

コメンテーター

大塚 美保

聖心女子大学現代教養学部教授

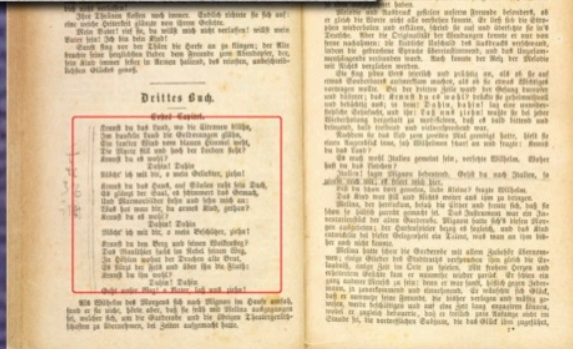
森鷗外
翻訳詩の
変遷..

『於母影』から『沙羅の木』へ



王巧館 合田 沢カ

99
Mittelschmerz
einiger Stunden ihre Stille durch den Schmerz
des Aufwachens, der durchdringt in ihrem Inneren
die unheimliche Nacht der Jahre ihrer Güter, auch die
die Augen erlosch, nur die Augen der Güter, die die
die Nacht die Jahre und lang hat die Nacht, hat sie
die Nacht.



10月29日(金)
17:30-19:30
Zoom 開催

『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』
「ミニヨンの歌」
(東大総合図書館所蔵・鷗外文庫より)



お申込は
QRコードから
10/27日まで

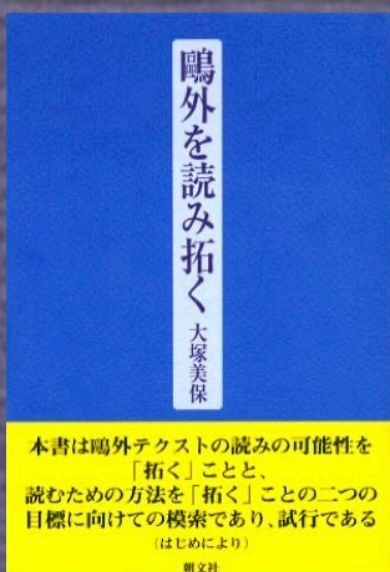


森鷗外翻訳詩の変遷： 『於母影』から『沙羅の木』へ

軍医、小説家、評論家、詩歌人とさまざまな顔を持ち、「テエベス百門の大都」と讃えられる近代人・森鷗外は、詩の翻訳家としても一流の仕事を残しました。ここでは、鷗外初期の翻訳詩集『於母影』から「ミニヨンの歌」(ゲーテ)、大正初期の詩歌集『沙羅の木』から「神のへど」(クラブント)をあげ、原詩と翻訳の比較対照をしながら、詩の主題、訳し方など、明治中盤と大正初期で何が違うのか、それは、鷗外自身や日本社会・文壇(詩壇)の変化とどのように関わるのか、などお話してみたいと考えています。



坂井修一
『森鷗外の百首』
ふらんす堂



本書は鷗外テキストの読みの可能性を「拓く」ことと、読むための方法を「拓く」ことの二つの目標に向けての模索であり、試行である
(はじめにより)
朝文社

大塚美保
『鷗外を読み拓く』
朝文社

といっても、私自身は近代文学の研究のプロではありません。本セミナーにおいても、一人の作家(歌人)の立場からの発信になります。そこで、「ディスカッサント」として当該分野の研究で著名な大塚美保先生(聖心女子大学教授)をお招きし、私の拙い講演の後で、ご意見・感想などいただくとともに、対談を行いながら、理解を深めたい、広げたいと考えています。

お申込QRコード

